

第3学年 美術科学習指導案

場所：美術室
学年：第3学年
授業者：古屋 美那実

1. 題材名

「卒業研究発表会にご案内 ～テーマの魅力を伝えよう！～」

A 表現(1)イ(イ)(2)ア(ア) B 鑑賞(1)ア(イ) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

3学年は、全体的に明るく活発で、学習や行事に真剣に取り組む生徒が多く見られる。美術科の学習でも、課題の内容や方法を理解して熱心に取り組む姿が見られる。表現の学習では、設定されたテーマを理解し、材料や用具を工夫して用いながら取り組むことができる。鑑賞では、自分の言葉で記述したり、仲間の意見に興味を持って聞いたりすることができる。昨年度は、自分がどのようなイメージ、どのような思いを込めた店や施設を開きたいのかという主題から、ロゴを考えるデザインの活動を行った。

一方で、校内で実施した「学びについての調査」によれば、美術科では「学習方法を工夫している」の質問に対して他の教科と比べて低い傾向にある。これは、数値が高かった数学科のように学習で目指す目標が分かりやすい教科と違い、美術科は、何をどのように学習したかが、またできるようになったかが分かりにくい。これは、授業の在り方が教員からの発問が中心となっていたために、生徒自身で問いを生み出し、自らの力で活動の過程を踏むことができていないところがあるからだと考えた。そこから、今年度の研究では生徒が自ら「問い」を生み出すことのできる場を設定していく中で、今まで学習した経験で得た学習方略を生かしながら、生徒が主題を生み出し、主体的な学びの実現を目指していきたい。

(2) 授業について

〔題材について〕

関係性 SELF（総合的な学習の時間）で行っている個々の卒業研究のテーマを主題に挙げることで自分の研究の成果を基に主題を生み出すことができる。

難易度 昨年度実施したロゴの学びから発展させた内容にすることで実現する可能性が感じられる。

必然性 年度末に実際に実施される卒業研究発表会を案内するフライヤーを作成し、個々の家庭に配布することで必然性が感じられるようにする。

多様性 canva を使用することで、試行錯誤しながら多様な技法で表現することができる。

この授業は SELF（総合的な学習の時間）で実施している卒業研究について発表内容の魅力や伝えたいイメージ等を主題にして、卒業研究発表会を案内するフライヤーをデザインする活動である。まず、導入ではフライヤーを鑑賞し、自分たちで色彩や文字のフォント、配置などを工夫し、自分の伝えたい情報やイメージを分かりやすく伝えるためにどのような工夫が考えられるかを確認していく。そして、自分が卒業研究に関連して、どのような魅力やイメージを伝えたいかという主題を考えていく。そのあと、自分の主題をもとに、色彩や文字のフォント、配置などを工夫し、クロームブックの canva を使用してフライヤーを制作していく。

以下は本題材の指導のポイントについてまとめた。

| 指導のポイント | |
|-------------|--|
| 導入の工夫 | ・実際に使われているフライヤーを準備したり、教員が作成したフライヤーを鑑賞資料として見せたりすることで、ねらいを明確にするとともに、生徒が活動の見通しを持てるようにする。 |
| ワークシートの工夫 | ・現段階で自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることについてまとめ、整理できるようにしていくためにワークシートを工夫する。 |
| 材料・用具の理解 | ・canvaの予備知識を入れるとともに、簡単に色彩や文字のフォント等を変更できるため、複数枚にわたってフライヤーを作成することで、自分のイメージに合った表現を追求できるようにしていく。 |
| 対話ができる環境の設定 | ・デザイン会社を想定し、チームをつかって行うことで、他者の作品や意見に触れながら、自分の伝えたいイメージを明確にできるようにする。 |

上記を実践することで、生徒が自ら「問い」を生み出し、主体的に活動に取り組めるようにしていく。

3. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標

卒業研究発表会を案内するフライヤーを考える活動を通して、伝えたい発表内容の魅力やイメージ等から主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、色彩や文字のフォント、装飾、構図などを工夫して発想、構想し、表現することができる。

(2) 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|--|
| <p>知</p> <p>色彩や文字のフォント、装飾、構図などの性質、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージを捉えている。</p> <p>技</p> <p>意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。</p> | <p>発</p> <p>発表内容の魅力や伝えたいイメージから主題を生み出し、色彩や文字のフォント、装飾、構図などが感情にもたらす効果や分かりやすさと美しさなどの調和、統一感などを総合的に考え、表現の構想を練ることができる。</p> <p>鑑</p> <p>伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p> | <p>態表</p> <p>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、主題を基に分かりやすさや美しさなどを総合的に考え構想を練ったり、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表したりして表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑</p> <p>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝達デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> |

4. 題材の指導計画（全5時間）

| 時間 | 学習内容 | 問いを生み出すための工夫 | 思考・判断・表現力を育む手立て |
|-------------|---|---|---|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を知る。 ・フライヤーを鑑賞する。 | <p>目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の中にあるフライヤーを鑑賞することで、どんな工夫がされているかを考える。 ・教師がつくった作品例を鑑賞することによって作品のイメージをもたせる。 | <p>鑑賞…鑑賞資料の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題に関わる発問と表現に関わる発問について問いかけ、実際のこの後の活動に繋がる鑑賞を行う。 |
| 2 3 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・主題を考える。（主題を生み出す） ・方向性を整理する。 | <p>方略計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動計画をもち、自分のやるべきことを理解させる。 <p>遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の卒業研究の内容からどういった魅力やイメージを伝えたいのか、広げられるようにワークシートを工夫したり、他者と交流したりできる機会をつくっていく。 | <p>発想…ワークシートの工夫・発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発想が深められるように、考える過程に沿ってワークシートを作成する。 ・主題を生み出す際に、生徒にとって身近に感じられるように落とし込む問いかけを行う。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・制作する。① | <p>遂行・方略調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・canva を使用し、試行錯誤しながら自分のこだわりを表現していく。 | <p>構想…ワークシートの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージを具体化していくためのワークシートの作成。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・作品を見せ合う。 ・制作する。②（課題を生かし、調整する） | <p>方略調整・振り返り・遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のデザインを他者に見てもらい、他者の見方や考え方に触れることで考えを深める。 <p>方略調整・振り返り・遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主題をもとにイメージを形や色を絵にして具体化させる問いかけを行う。 ・手が止まっている生徒には、主題を確認させ状況に応じた問いかけを行う。 | <p>構想…生徒間対話の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力やイメージをどのように表すか、考えを広げるために活動の中で鑑賞の時間を設定。 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の作品を鑑賞する。 ・制作した作品について振り返る。 | <p>全体の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の作品を鑑賞する中で、自分の作品について振り返る。 | |

6. 本時の授業

- (1) 日 時 令和6年11月30日(土)
 (2) 対 象 3年3組生徒 男子 18名, 女子 18名 計36名
 (3) 指導意図

本時は、3時間の制作時間が設けられている中で最後の時間となる。この3時間は、それぞれの生徒の進捗状況や必要に感じたものによって、制作したり、鑑賞したりできるようにしているが、本時はおおよそ完成に近いことを想定して、それぞれが作成したフライヤーを見せ合い、鑑賞が深められるように働きかけていく。活動では、自分が伝えたいものや表現の意図等を他者に説明することで自分の伝えたいことを明確に捉え作品に改善を加えたり、他者のフライヤーの表現の意図や工夫を捉え、デザインがよりよくなるような意見を考えたりしていく。鑑賞では、生徒が深く意見を交わすことができるように、班の隊形で制作を行ったり、必要に応じて他の班員を交流できたりする体制をとるとともに、ワークシートを活用することで活発に交流できるようにする。

- (4) 展開 (4/5)

| 時間 | ○学習活動 ・活動の内容, 指導のポイント | 指導上の留意点 |
|--|---|--|
| 導入 10分 | ○本時の学習内容について知る ・前時の学習を振り返る。 ・授業の流れを知る。 ○本時の目標と発揮する資質・能力を確認する。 | ・本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝え、生徒が理解して取り組むことができるようにする。 |
| 本時の目標 ・伝えたい内容が効果的に伝わっているかを検証し、説明する等して表したいものを明確にしよう。 ・表現の意図や工夫を捉え、他者のフライヤーがよりよくなるような意見を考えよう。 | | |
| | <div style="border: 1px solid orange; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>意見を交換したことをもとに、 粘り強く取り組もう。 (主体的に学習の取り組む態度)</p> </div> <div style="border: 1px solid yellow; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px auto;"> <p>フライヤー</p> </div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>色彩や文字のフォント、装飾、構図等</p> </div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>…から、造形的な特徴を捉えよう。 …から、全体のイメージを捉えよう。 見通しをもち、工夫して表そう。 (知識・技能)</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px;"> <p>…の伝達デザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取ろう。 …の作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考えよう。 (思考・判断・表現)</p> </div> |
| 展開 35分 | ○フライヤーを鑑賞する。 ・フライヤーを相互鑑賞し、自分の伝えたいイメージが伝わっているかを検証し、調整する。 ○意見や他者の作品を鑑賞したことをもとに制作を進める | ・ワークシートを配布し、視点をもって鑑賞することができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ①コンセプトが伝わる？ ②大切な情報が瞬時に伝わる？ ③細部までこだわっている？ </div> ・意見を得て、修正を加えて、また意見をもらいにいく等して、自身の必要に応じて移動しながら活動しても良い。 ・活動の様子を観察し、必要に応じて生徒への声かけを行う。(別紙の発問の構造図参照) |

| | | |
|-----------|--|--|
| まとめ 5分 | <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートを用いて学習を振り返る。 ・制作途中の作品を撮影し、記録する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオとしてまとめ、評価に生かす。 |
|-----------|--|--|

(5) 本時の評価規準 ※■Cへの手立て

| 評価 | 思考力・判断力・表現力 | | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----|--|--|--|
| | 発想や構想 | 鑑賞 | 態鑑 |
| B | <p>発表内容の魅力や伝えたいイメージから色彩や文字のフォント、装飾、構図などが感情にもたらす効果や分かりやすさと美しさなどを考え、他者からもらった意見を参考にしながら表現の構想を練ることができる。</p> <p>【制作途中の作品・活動の様子】</p> | <p>他者のフライヤーを鑑賞し、伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の工夫などについて考え、伝えるなどして、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【ワークシート・活動の様子】</p> | <p>主体的に作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深め、意見を伝える等して鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【ワークシート・活動の様子】</p> |
| C | <p>発表内容の魅力や伝えたいイメージから色彩や文字のフォント、装飾、構図などを考え、表現の構想を練ることが難しい。</p> <p>■問いかけを通して、生徒の主題と、文字や色等が感情にもたらす効果などの関係を確認させて、表現の構想について考えさせるようにする。</p> | <p>他者のフライヤーを鑑賞し、伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えることが難しい。</p> <p>■問いかけを通して、表現で学んだことと関連させながら見方や感じ方を深められるようにする。</p> | <p>作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、意見を伝える等して鑑賞の学習活動に取り組むことが難しい。</p> <p>■問いかけを通して、他者の作品の意図や工夫等から、デザインの効果や造形的な特徴との関係性等を考えさせるようにする。</p> |

7. 参考文献

筒井美希(2015)『なるほどデザイン』株式会社エムディエヌコーポレーション

発問の構造

| | |
|----------------------|--|
| ① 主題を生み出すための問いに迫る主発問 | 本研究においては 自分自身が生み出す “主題”に 着目していく |
| ② 主題を表すための問いに迫る主発問 | |
| ③ 主題を読み取るための問いに迫る主発問 | |
| ④ 具体化や焦点化するための補助発問 | |

題材名 卒業研究発表会へご案内～テーマの魅力伝えよう！～

| 時数 | 内容 | 本題材の発問構成 | 具体的な発問 |
|------|---|------------------|------------------|
| ① 鑑賞 | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |
| ① | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |
| ② | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |
| ③ | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |
| ④ | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |
| ⑤ | <p>① 鑑賞</p> <p>② 主題の形成 (制作)</p> <p>③ 主題の具体化 (制作)</p> <p>④ 主題の具体化 (制作)</p> <p>⑤ 振り返り</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> | <p>① ② ③ ④ ⑤</p> |

8. 発問の構造図